

共同運営部門：中央検査部・輸血部

一組織・構成員一

<中央検査部>

部長:高野徹 検体検査管理者:高野徹
 科長:花田浩之 科長代理:原克則
 主幹:栄川智子、中村雅美
 臨床検査技師(総数):35名(非常勤1名、臨時嘱託員4名含む)

<輸血部>

部長:安見正人
 輸血部担当技師:4名(他部門と兼務者含む)

一基本方針・目標一

<基本方針>

- ・常に患者様の立場に立って考え行動します。
- ・精度の向上を計り、良質な検査結果を提供します。
- ・業務・経営改善に努力し効率のよい検査を行います。

<目標>

- ・検査の迅速化を行い待ち時間の短縮に貢献する。
- ・精度管理ならびに検査技術のさらなる向上を目指す。
- ・チーム医療の一員として貢献する。
- ・予防医学を含めた地域医療の体制強化に貢献する。
- ・研修体制を確立させ有機的な人事交流を実践する。
- ・働き方改革に伴う業務内容を改善する。

一各部門の概要及び実績一

<検体(生化学、免疫、血液、一般)検査部門>

検査システムをLAINSに変更した。また、基準値として共用基準範囲導入をめざし準備を行っている。生化学・免疫自動分析器は1台を更新し、院内検査ではNGALの採用や検査件数の少ない項目(ピロリ抗体、フェニトイン)は外注化とした。前年度に比べ全体的な検査件数は約4.7%減、内訳は約2.2%の外来検査の減少と約8.6%の入院検査の減少である。

【今年度の成果と反省点】

検査システムの変更を行ったが、これによる予期せぬトラブルも発生し、逐次改善を行っている。今後も情報管理室との連携により更なる対応の迅速化を目指す。

【来年度への抱負】

基準値の見直しの実施とALPおよびLDの測定法を現行のJSCC(日本臨床学会)からIFCC(国際臨床会議)への変更を実施する。また、生化学・免疫自動分析器をさらに1台および尿自動分析器を導入し、より精度高い検査結果とスムーズな検査結果報告を実現出来る予定である。

<情報管理部門>

検査情報を一元的に管理するための部署を立ち上げた。要員を2名配置し、院内外の検査項目の整理やマスターの整備、新規項目の導入に際しての臨床側への窓口を統一することで検査情報の管理と周知をスムーズに行えることを目指している。

【今年度の成果と反省点】

新規部署の立ち上げのための要員の確保により、検査項目についての周知や問い合わせの統一化、マスターの変更がスムーズになった。今後も各部署との連携により更なる対応の迅速化を目指す。

【来年度への抱負】

来年度にはさらに要員の強化を図り、検査情報の共有や迅速な臨床への対応窓口となることを目指している。

2019年度検体検査件数

外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月
一般検査	10,802	10,680	10,611	11,556	11,045	9,970
生化学検査	81,364	82,226	82,486	89,204	87,909	81,771
血ガス	271	276	291	308	296	292
血液検査	14,408	14,430	14,415	15,575	15,764	14,680
血清検査	8,589	8,731	8,782	9,718	8,925	8,542
合計	115,434	116,343	116,585	126,361	123,939	115,255

外来	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般検査	11,447	9,996	10,770	9,496	10,499	10,418	127,290
生化学検査	87,573	81,885	83,696	76,878	87,600	79,336	1,001,928
血ガス	319	271	309	257	305	298	3,493
血液検査	15,568	14,705	14,496	13,672	15,443	13,923	177,079
血清検査	8,882	8,471	8,607	7,901	8,971	8,082	104,201
合計	123,789	115,328	117,878	108,204	122,818	112,057	1,413,991

入院	4月	5月	6月	7月	8月	9月
一般検査	4,710	5,218	6,906	6,295	5,711	5,194
生化学検査	52,111	53,341	51,861	58,305	54,931	54,801
血ガス	93	80	85	63	37	83
血液検査	12,524	13,068	13,015	14,211	13,856	12,988
血清検査	1,306	1,259	1,187	1,297	1,102	1,187
合計	70,744	72,966	73,054	80,171	75,637	74,253

入院	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般検査	6,161	6,056	5,473	5,360	4,913	5,330	67,327
生化学検査	54,888	51,359	54,922	50,989	55,848	52,765	646,121
血ガス	52	132	112	88	91	126	1,042
血液検査	13,191	12,625	13,260	12,681	13,350	13,313	158,082
血清検査	1,106	1,214	1,203	1,207	1,322	1,189	14,579
合計	75,398	71,386	74,970	70,325	75,524	72,723	887,151

<微生物学的検査部門>

細菌検査件数は大幅に増加した。これは入院患者を対象とした便のVRE、鼻腔のMRSAのスクリーニング培養が徹底されてきたからと思われる。また昨年に比べ、CRE(カルバペネム耐性腸内細菌)などの薬剤耐性菌が増加したため、耐性遺伝子の検査方法を充実させた。

CREに関しては、検出された際、速やかにICTと協力し、同室患者等の監視培養を行うことで、耐性菌の伝播を食い止めることができた。

【今年度の成果と反省点】

本年は新人迎えたため、その教育に尽力した。1年経過し、一通りの業務が出来るようになった。

また、昨年からVREの検査のために導入されていたPCR装置を用い、他の検査項目の導入を行った。それまで診断が困難であったCDトキシンのPCR、血液培養のブドウ球菌のPCRを導入した。他には結核菌のPCRを院内で行うこととし、代わりにそれまで固形培養で行っていた抗酸菌培養を、液体培養が可能な外注検査に移行し、抗酸菌検査の迅速化をはかった。

【来年度への抱負】

今後、薬剤耐性菌の検出数は増加し、また種類が増えていくことが予想される。それに対応できるようスタッフの知識と技術の向上への取り組みを継続していきたい。

また業務の効率化を図り、迅速な臨床対応、円滑な業務遂行に努めたい。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
一般細菌	外来	1138	1199	1084	1297	1554	1584
	入院	3879	3561	3287	3819	3680	3413
抗酸菌	外来	93	75	55	73	55	29
	入院	50	68	89	65	34	64
迅速	外来	332	272	166	170	223	201
	入院	45	26	35	36	26	27
合計		5537	5201	4716	5460	5572	5318

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般細菌	外来	1677	1373	1216	1367	1279	1359	16127
	入院	3489	3347	3412	3566	3161	3272	41886
抗酸菌	外来	58	54	101	87	107	40	827
	入院	44	33	115	62	75	67	766
迅速	外来	255	241	300	441	493	357	3451
	入院	37	38	72	93	65	79	579
合計		5560	5086	5216	5616	5180	5174	63636

<生理機能検査部門>

生理検査件数総数は、2019年度は前年とほぼ横ばいである。

今年度も新たに超音波認定試験で2名(腹部、循環器領)の合格者があり計10名(計29部門)となった。

エコー検査の臨床研究への参加、心臓・血管エコーの予約枠の見直しを順次おこなっている。

退役軍人の精密呼吸機能検査、航空身体検査の受け入れ開始をした。

現在、リハビリテーション科で中心に施行されているCPX検査を行うべく研修に2名参加し、6月を目途に導入予定である。

乳児股関節エコーの導入をめざし、研修や講習会を終了し、1ヶ月健診乳児で開排制限を有する乳児の股関節エコーを実施予定である。

【今年度の成果と反省点】

レポートシステムが導入され、当初は改善点も多かったが順次変更と修正を行い、所見入力がスムーズになった。同時に、心臓や頸動脈エコーのSR取得が可能となり数値入力ミスが無くなった。

【来年度への抱負】

さらなる人材の育成と技術向上を目指し、臨床側からの要望に応えられるように努めていきたい。

また、エコー予約枠の見直しや枠の増加を行い、患者の待ち時間の減少に取り組んでいく。

生理機能検査(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	155	144	150	156	121	114	111	137	114	127	141	128	1,598
負荷心電図(エルゴメーター含む)	4	3	1	4	3	1	3	3	2	6	6	1	37
ホルター心電図	8	12	7	13	9	5	10	4	0	3	5	5	81
簡易呼吸機能	26	18	18	17	15	15	18	16	18	28	17	16	222
精密呼吸機能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	4
脳波	13	12	10	11	14	21	13	18	15	15	6	8	156
脳波(小児)	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	1	5
ABR(新生児)	68	51	67	70	65	64	66	73	65	46	51	62	748
ABI・CAVI	20	27	27	29	12	15	27	22	24	23	20	26	272
SPP	0	2	0	1	1	0	1	2	2	0	1	1	11
中心血圧	5	11	7	10	3	2	10	5	13	14	13	12	105
呼吸抵抗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腹部エコー	58	61	47	74	66	61	56	54	48	45	42	45	657
表在エコー(甲状腺を含む)	0	2	0	2	2	3	2	1	2	3	1	1	19
乳腺エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓エコー	198	157	176	175	170	151	168	171	176	169	143	161	2,015
経食道心エコー	0	0	0	1	1	2	0	1	1	2	0	0	8
血管エコー	96	91	79	93	95	75	100	93	99	83	69	106	1,079
関節エコー	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3
救命ABR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	652	591	590	657	577	529	587	600	581	566	516	574	7,020

耳鼻科外来聴力検査	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
標準純音	103	100	123	130	120	99	84	95	82	75	62	65	1,138
簡易聴検	203	167	151	195	173	158	180	170	155	94	98	98	1,838
気骨導(L)	6	7	9	8	6	11	5	6	2	6	6	5	77
気骨導(R)	6	4	8	3	4	5	6	2	7	3	6	4	58
ABLB	4	5	6	8	4	5	3	3	4	5	7	6	60
SISI	0	2	1	2	0	0	1	1	2	0	1	0	10
テンパノ	51	49	60	82	74	52	32	48	48	45	33	31	605
耳小骨筋	5	6	5	11	11	3	5	10	7	3	5	7	78
OAE	5	4	13	12	8	2	6	6	5	3	4	4	72
電気味覚	5	7	5	8	7	5	6	14	5	3	6	5	78
ティスク味覚	3	1	2	3	0	4	3	7	7	2	3	3	35
語音	1	0	1	2	2	1	3	1	4	1	2	1	17
aABR	18	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	20
ABR	2	5	5	5	7	4	3	4	5	4	2	3	49
ASSR	2	5	5	5	6	4	3	3	4	4	3	3	47
ENoG	4	7	4	8	8	3	2	14	7	3	6	3	69
Integrity	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
クリセロール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
聴覚・耳機能・自記	3	3	5	13	8	3	4	6	5	6	4	6	68
合計	422	373	403	495	438	359	347	390	346	258	245	244	4,320

<輸血部>

2019年度の輸血関連検査は、外来は前年度より減少し入院は増加した。血液製剤の使用数はRBC、FFP、PCは前年度より増加した。

【今年度の成果と反省点】

廃棄率減少のため、前年度に救命診療科でのT&Sの導入を提案し、運用が開始され、前年度廃棄率が平均2.3%であったが、0.2%まで下げることができた。

輸血検査機器の更新を行い、D陰性確認試験や抗体価測定等自動機器で測定できるようになった。

反省点としては前年度の抱負であったアルブミンの管理は行えていないことである。

【来年度への抱負】

来年度も今年度同様の廃棄率の維持ならびにその他の廃棄製剤の減少と輸血関連製剤の適正使用を目指す。

輸血関連検査(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	497	530	496	586	540	492	546	544	526	506	504	498	6,265
スクリーニング	215	223	229	245	265	232	252	232	259	256	175	175	2,758
間接クームス試験	90	101	77	104	73	86	105	100	112	106	89	80	1,123
直接クームス試験	3	3	3	6	7	9	10	6	9	8	3	5	72
合計	805	857	805	941	885	819	913	882	906	876	771	758	10,218

輸血関連検査(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	73	63	54	57	71	73	59	62	71	63	61	75	782
スクリーニング	142	128	141	148	120	133	144	143	151	158	147	176	1,731
間接クームス試験	14	21	23	17	24	28	15	17	24	23	21	19	246
直接クームス試験	4	6	5	1	3	2	2	3	4	2	1	2	35
合計	233	218	223	223	218	236	220	225	250	246	230	272	2,794

血液製剤使用額・廃棄額 (外来・入院)	4月	5月	6月
血液準備単位数(RBC)	708	848	776
血液準備単位数(FFP)	478	655	494
血液準備単位数(PC)	1,225	1,280	1,400
自己血貯血(単位数)	12	14	10
クリオプレシビテート使用本数	21	18	9
血液製剤使用額	17,695,592	20,303,381	20,214,335
血液製剤廃棄額	0	71,090	17,728
RBC廃棄率(%)	0	0.8	0.3

血液製剤使用額・廃棄額 (外来・入院)	7月	8月	9月
血液準備単位数(RBC)	708	854	706
血液準備単位数(FFP)	288	918	736
血液準備単位数(PC)	1,545	1,605	1,015
自己血貯血(単位数)	12	11	10
クリオプレシビテート使用本数	6	48	51
血液製剤使用額	19,171,107	25,075,177	19,491,822
血液製剤廃棄額	35,824	0	159,853
RBC廃棄率(%)	0	0	1

血液製剤使用額・廃棄額 (外来・入院)	10月	11月	12月
血液準備単位数(RBC)	752	950	813
血液準備単位数(FFP)	592	1,038	502
血液準備単位数(PC)	1,270	1,550	925
自己血貯血(単位数)	20	12	10
クリオプレシビテート使用本数	18	21	12
血液製剤使用額	20,084,404	26,766,806	17,314,701
血液製剤廃棄額	0	210,594	18,054
RBC廃棄率(%)	0	0	0.2

血液製剤使用額・廃棄額 (外来・入院)	1月	2月	3月	合計
血液準備単位数(RBC)	792	798	776	9,481
血液準備単位数(FFP)	542	502	456	7,201
血液準備単位数(PC)	1,080	1,975	1,795	16,665
自己血貯血(単位数)	12	16	17	156
クリオプレシビテート使用本数	24	12	18	258
血液製剤使用額	18,027,269	24,798,047	23,625,576	252,568,217
血液製剤廃棄額	0	81,354	0	594,497
RBC廃棄率(%)	0	0	0	

一 認定検査士一

・超音波検査士

(超音波指導検査士(腹部領域)) 1名、
(消化器領域) 8名、(循環器領域) 5名、
(表在領域) 6名、(泌尿器領域) 4名、
(血管領域) 1名、(健診領域) 4名

・超音波指導検査士(腹部領域) 1名

・細胞検査士 1名、(国際資格) 1名

・認定血液検査技師 2名

・骨髓検査技師 1名

・認定輸血検査技師 1名

・細胞治療認定管理師 2名

・救命検査認定技師 2名

・緊急臨床検査士 2名

・未病専門指導師 1名

・心電図検定2級 1名

・臨床病理同学院 二級臨床病理技術士(細菌) 1名

・高血圧・循環器病療養指導士 1名

・未病専門指導師 1名

・POCTコーディネーター 1名

・大阪府肝炎医療コーディネーター 2名